

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：物部川における災害復旧時の自然環境配慮の取組	
水系/河川名：物部川水系/物部川	河川分類：大河川
河川の流域面積：508km ²	整備計画流量：4200m ³ /s(W=1/50) セグメント：1
事業：災害復旧	事業開始年度 平成30年度
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：縦断的連続性の保全・再生・創出	
工法(主な)：落差工	
配慮事項(主な)：その他	

背景・課題、目標設定

<背景>

かつての物部川の河川空間は、砂礫河原や瀬淵などの多様な流れが存在し、アユなどの生物の良好な生息空間となっていたが、近年はみお筋の固定、局所深掘れの進行等により、アユなどの生物の生息が危ぶまれていた。

そういった状況のなか、平成30年7月に起きた大規模な出水では戦後第2位の水位を記録し、漏水や根固め流出といった被害を受け、数m河床が低下している箇所においては、アユの生息に適する瀬が消失した。

そこで河川管理施設の復旧と併せて、河川環境にも配慮した分散型落差工を実施した。

取り組み内容・対策例



- ・物部川戸板島箇所(右岸6.4k付近)で分散型落差工(H31.2.19-22)を実施。
- ・材料は河床材と現地に散乱した異形ブロックを再利用。
- ・瀬の中央部を低くし、平水位時においても瀬が形成されるよう復元。
- ・異形ブロックを列状に配置することで河床の洗掘を抑制し、瀬の高さを維持しながら河岸の安定化も図った。

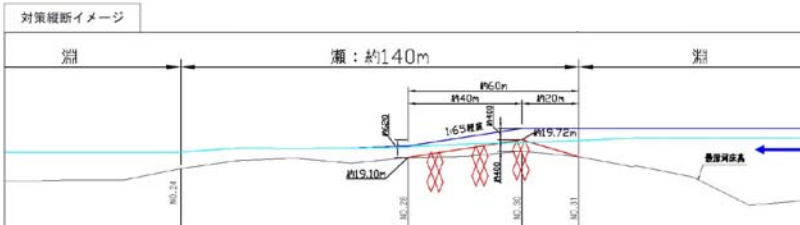
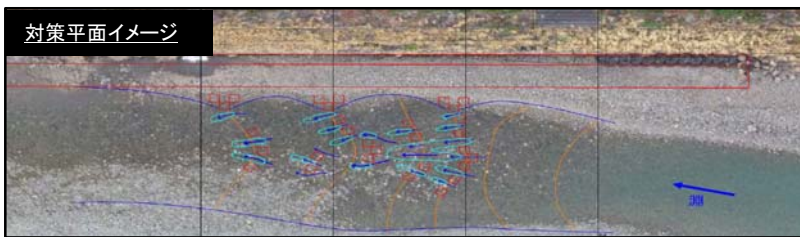
<分散型落差工実施により期待されること>

樋状の河床にすることで流れの緩急が生じ、アユの餌となる藻の繁茂や生息場の環境の創出に期待。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

瀬が消失し、平たい河床に変化していた河床は異形ブロックと河床材を使用した分散型落差工によってアユが生息しやすい環境に改善された。また、今のところ対策工実施後に起きた複数の出水では異形ブロックの流出や大きな河床変化等は起きていないことからアユなどの良好な生息環境は維持されている。今後、生息数等のモニタリングを実施する。



備考